



公益財団法人 星総合病院

けんこう

懸虹

平成27年1月 No.282

新年のご挨拶

公益財団法人として

地域に果たすべき役割



闘牛 (F20、2000)
星 一雄

- 認知症疾患医療センターの取り組み
- 懸虹の箱通信
- 第30回海外研修施設ニュース
- トピックス

醫

靈

団塊の世代が七十五歳を迎える二十五年以降、日本は四人に一人が七十五歳以上という、世界でも類をみない超高齢化社会に突入します。現在の医療・介護提供体制では立ち行かなくなり、病院完結型から地域完結型へと、生活を支えるケアを重視する制度への転換が求められています。

そこで近年厚生労働省が推進しているのが「地域包括ケアシステム」です。メディアなどで耳にした方も多いのではないのでしょうか。重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供されるシステムの構築が求められています。

患者や家族にもっとも近くで看護・介護を提供でき、病を得ても安心して地域で暮らすためのお手伝いを行う訪問看護は、地域包括ケアシステム構築の一翼を担う重要なサービスです。二十四時間対応・ターミナルケア・重症者対応など、私たち訪問看護ステーションに求められる役割は今後ますます拡大していくものと思われれます。

地域ニーズ、時代のニーズに耳を傾けながら、地域の医療機関、各事業所、そして多職種間の連携を大切に、その人らしく住み慣れた地域で生活することを支援し続けていきたいと考えます。

三春訪問看護ステーション
所長 佐藤 キクイ

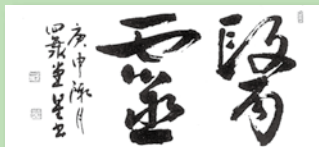
＜醫靈＞靈をも醫(癒)やしたい——という創始者の願いを医療従事者の医の心とすべく造られた当法人の理念

新年のご挨拶

公益財団法人として地域に果たすべき役割

当法人の理念は、「**医**」である。創始者星一郎が、私達に託した最大の使命は、地域に貢献することである。この理念を、私達一人ひとりが、心から受け継ぎ、実践していく。医療は、人の命を救うことである。そのためには、常に最新の医療技術を開発し、提供する必要がある。また、地域に貢献するためには、地域の人々と連携し、協力する必要がある。この理念を、私達一人ひとりが、心から受け継ぎ、実践していく。

理念



公益財団法人星総合病院 理事長 星 北斗



本年、当法人開設90周年という節目の年を迎えます。地域の皆様および関係各位のご支援ご指導に心より感謝申し上げますとともに、これまでの職員の努力に改めて感謝します。

昨年は、地域医療全体の質向上に向けた各種教育活動の推進、メグレズホールの活用やおぞら市開催など、地域活性化へ向けた新しい取り組みにも挑戦してまいりました。

本年4月からは公設民営化される三春町第1保育所の指定管理者として運営をスタートします。さらに、市内大町の旧病院跡地利用について、地域の賑わいに貢献できるような新たな施設の建設を目指し計画を進めていきます。

時代と共に変化する地域ニーズに柔軟に対応し、いつまでも安心して住み慣れた地域で暮らせるよう、保健・医療・福祉の連携強化に努めてまいります。

皆様からのご指導を賜りながら、着実に事業を推進していく一年にしたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

公益財団法人星総合病院 総長院長 丸山 幸夫 ほし横塚クリニック 院長



明けましておめでとうございます。高齢化が進行し医療、看護、介護などの需要が増大している中で昨年は医療法の改正があり、病床機能の報告が求められ当院はこれまでの流れから急性期機能を選択しました。今後の動向に注目していきたいと思います。また、昨年春には診療報酬改定があり、7：1病床基準が厳しくなりましたが、当院はクリアしており今後も地域医療の発展促進のため維持していきたいと考えています。新病院に移転後、病院は順調に経過しておりますが、これも皆様のご支援、お力添えによるものと感謝しております。

昨年はお蔭でベースアップも実施できました。このようなことをしている病院はないようで理事長の決断に感謝したいと思います。これからも適切な医療、看護、介護の提供に力を入れていきたいと思っています。ほし横塚クリニックも通常の外来診療に加え訪問診療なども増加しており時代の流れを痛感します。職員一同使命感を持ってしっかり対応していきたいと思いますので宜しくお願い致します。

星総合病院 病院長 野水 整



新年あけましておめでとうございます。

新病院に移転して3年目の新春を迎えました。皆様のおかげをもちまして地域医療の中心的役割を果たす急性期病院として評価されており、その役目はますます重いものとなってきております。福島県全体が医師不足とくに若手医師が増えないなか、当院は関係各医療施設のご支援ご協力のもと2次救急病院あるいは高度な専門科を擁する病院として、また、急性期病院を中心とした病病・病診連携、在宅医療などの地域全体のよりよい医療システムの構築に今年も頑張りたいと思います。病院全体でモチベーションを維持し、安全で質の高い医療を地域の皆様に提供できるようさらに努力をしてまいりたいと考えております。



星ヶ丘病院 病院長 沼田 吉彦

新年明けましておめでとうございます。

公益財団法人に移行し3回目の新年を迎えました。私たちは東日本大震災という大きな悲劇に直面し、公益法人の存在意義、果たすべき役割の重要性を改めて感じさせられています。これまでの我が国の歩みを振り返ると、「互助・共助」の精神が薄らぎ、家族間での絆、地域コミュニティにおける助け合いの場が減少してしまいました。このような時代において、公益法人の役割、使命はますます大きな意義を持ちます。

公益法人の活動は、「利他の心」の表れのように思います。この精神を社会全体が共有し、一人ひとりが実践すれば、社会はより温かみに溢れ、私たちの生活に深みや厚みが生まれるのではないのでしょうか。

星ヶ丘病院がどのような機能を担っていくか、患者にとって最も良い医療とは何か、どのような医療を実現したいかを考え、今まで以上に地域医療水準向上に貢献出来るよう公益活動をさらに広げ、職員一人ひとりがそれぞれの立場で歩みを進める必要があります。2015年を職員と一緒に前進させ実り多き年であるよう取り組んで参ります。

三春町立三春病院 病院長 渡辺 直彦



新年あけましておめでとうございます。

超高齢化社会に向けて、地域ごとに、医療、介護、予防に加え、生活支援サービスや住まいも提供されるネットワークの構築が求められ、昨年6月に改正された医療法にて地域包括ケアシステムを構築する必要になりました。当院での地域包括ケア活動として、医療の面では、病状悪化時に短期入院対応に在宅医療と介護の支援や高度医療機関へのゲートキーパーの役目、さらには急性期医療から在宅への橋渡しなどです。そして訪問診療と昨年開設した訪問看護ステーションを充実させ、回復期医療から在宅医療へ患者さんをスムーズに移行して参ります。そして、今年度より始まる三春町第1保育所の運営を軌道に乗せることを目標に、三春町敬老園をさらに充実させ、公益財団法人として三春・田村地区の実状に沿った「こどもからお年寄りまで」の医療・介護・福祉の提供に努めたいと考えております。

本年も、皆様のご支援、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。



介護老人保健施設オリオン 施設長 森 慶秋

戦争が済んで70年という。昭和20年8月15日だから当時私は12歳でした。現在82歳ですからそうですね。早いのか遅いのかわかりませんが途中にはいろいろなことがありました。若し100歳まで生きられるとしても残りは少ないものですね。この頃の毎日を考えても朝の朝会に出るのにも杖でなく歩行器を押して歩いていきます。

車椅子の入所の方々のことを考えればよしとしなければ。なんとか日々の仕事があって生活もできることには感謝しなければいけません。

社会福祉法人愛星福祉会 理事長 星 光一郎



新年明けましておめでとうございます。

昨年は社会福祉法人を目の敵にしたような論調がかまびすしく、社会福祉法人にも課税し税金を取り上げる話に象徴されるような議論が今尚くすぶっています。暮れの選挙が済み今後どのようにになっていくか注視すべきことと思います。

先に財団法人は公益財団法人と一般財団法人へと鞍替えしたところですが、それに追随した法人改革として社会福祉法人の在り方が変わります。理事会・評議員会等の組織体制や財務諸表や第三者評価事業の受審の有無等の情報開示、公益性のある社会貢献事業の実施の義務付けにまで及び、措置制度に逆戻りするような内容も含まれているようです。

又、医療介護総合確保推進法によるように、今後は地域包括ケアシステムを医療と介護福祉が一体となって構築すべき方針が示されました。医療と福祉の連携協力が更に重要となりますので、本年もどうぞ宜しくお願いします。

認知症疾患医療センターの取り組みについて

当法人は、福島県の委託を受け、平成25年8月より星総合病院・星ヶ丘病院共同で『認知症疾患医療センター』の運営を開始しました。平成27年1月現在、県内では各地方にセンターが設置され、当法人を含め計4施設が委託を受けています。

開設から1年半が経過した当センターの活動内容についてご紹介します。

認知症疾患医療センターとは？

保健医療・介護機関等との連携を図りながら、認知症疾患に関する鑑別診断、周辺症状を身体合併症に対する急性期治療、専門医療相談などを実施するとともに、地域保健医療・介護関係者への研修を行い、認知症の早期発見、早期対応体制を強化しております。

当センターでは、星総合病院(一般病院)と星ヶ丘病院(精神科病院)がセンター機能を担っております。星ヶ丘病院は精神疾患の治療を主とした医療機関であり、認知症疾患治療病棟、精神科急性期病棟、精神科身体合併症病棟を有し、外来診療、相談全般、入院治療と幅広く対応しています。

認知症疾患医療センターの主な取り組み

○専門医療相談を実施しています

認知症患者本人、家族、関係機関(市町村、地域包括支援センター、保健所等)からの認知症に関する医療相談に対応するとともに、認知症の診療を行っている医療機関等(精神科、神経内科等)の紹介を行っています。

【お電話による相談窓口のご案内】

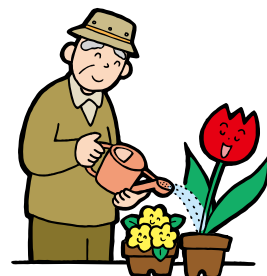
◆受付日及び受付時間

月曜日から土曜日 午前9時から午後5時まで
(木曜日の午後、第3木曜日全日、日曜日、祝日、年末年始を除く)

◆専用ダイヤル ☎024-983-5529

○物忘れ外来を設置し、認知症の診断と対応を行っています。

認知症の診断を行い、地域の関係機関との情報共有により、医療・福祉・介護の支援に結び付けます。診断後はご本人のかかりつけ医と連携を図り、日常診療はかかりつけ医が担当することを基本としています。



○身体合併症・周辺症状への対応

認知症疾患医療センターで受け入れるほか、認知症に係る専門医療機関、一般病院や精神科病院等と連携し、地域全体で受け入れる体制を整えています。

○認知症予防教室の開催

平成26年4月よりスタートしました。今年度は星総合病院かがやき健康館にて、1クール3～6回の教室を計3クール実施しています。認知症予防の希望者に対し、認知症看護認定看護師、作業療法士、保健師などが講師となり、講義や運動を行います。参加者間の交流や認知症予防への意識付けを図ります。リピーターも多く好評です。

講義内容例

「認知症とは」	講師：認知症看護認定看護師
「体の元気は頭の元気」	講師：保健師
「脳に良い活動について」	講師：作業療法士



○認知症サポーター養成講座の実施

認知症についての正しい知識と対応について理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者「認知症サポーター」を養成します。当法人職員、さらには取引業者様を対象とした研修会の開催を計画しています。



地域の関係機関の皆様と協力し、今後さらなる活動の充実に努めてまいります。

懸虹の箱通信

～あなたの声をお聞かせください～

星総合病院では、院内各所にご意見箱「懸虹の箱」を設けております。いただいたご意見・ご要望については、各担当部署で検討し、病院運営面の改善に活かしております。ご投稿いただいたご意見等の一部をご紹介します。



ご意見 ご要望

入退院センターの出入り口を
日曜日にも開放してほしいです。

喫煙スペースが
ほしいです。

ご不便をおかけし申し訳ありません。休日と
夜間帯は、安全管理上、正面玄関だけの利用に
しています。ご理解とご協力をお願いいたします。

当院は敷地内全面禁煙とし
ておりますので、喫煙スペース
の設置は出来かねます。
ご了承ください。

予約でも待ち時間が
長すぎます。

10数年星病院に通院しております。外来で
薬だけの処方を希望したところ、かかりつけ
医に紹介されました。星病院にはかかれな
いということでしょうか。

ご迷惑をおかけし申し訳ありま
せん。国の医療政策に伴い、地域医
療機能の「機能分化」「連携」に努め
ております。外来診療は地域の医
院に受け持っていただき、当院は
入院治療を中心に行っております。
この方針のさらなる推進のため、
予約制を行っております。しか
しながら診療科によって予約が集
中し待ち時間が長くなるなど、患
者さんには大変ご迷惑をおかけし
誠に申し訳ございません。

ご不快な思いをさせてしまい大変申し訳ござい
ません。厚生労働省は、初期の治療は地域の医
院・診療所などで、高度・専門医療は病院
(200床以上)で行う、という医療機関の機能分
担を推進しています。

普段は地域の医院(かかりつけ医)に診察を受
けていただき、専門医の診察や検査・入院が
必要なときは、総合病院へ紹介して治療を
引き継ぐ、そして病状が安定したら、また地
域の医院に引き継ぐ…この流れが「医療連
携」です。患者さんが必要とするとき適切
な治療を提供でき、当院が地域の中核病
院としての機能を十分に果たすためにも、
地域の医院との協力体制が重要です。ご理
解のほどよろしくお願いします。

お褒めの 言葉

患者の立場になって考えてくれ、
病院の駐車場そして洗濯機・乾燥機
を無料にいただき、ありがとう
ございました。

誠意ある医師と看護師さんの行き届いた技
術、人間性に接しながら心地よい入院生活が
送れました。ありがとうございました。ハード、
ソフト両面で充実したよい病院だと思いま
した。

ご意見ありがとうございました。
今後も患者さんの立場に立った対
応に努力してまいります。

職員への心温まるお言葉ありがとうござい
ます。今後も行き届いた対応ができるよう努
力してまいります。

貴重なご意見をありがとうございます。

いただいたご意見を真摯に受け止め、全職員でより良い医療の提供に努めてまいります。

*懸虹の箱に投書いただいたご意見への回答は、外来棟1階会計脇の掲示板に掲示しております。

第30回海外研修 イタリア

当法人では毎年、勤続10年を迎えた職員および研修医が参加して、海外研修を実施しています。今年度は15名が参加し、11月17日～11月22日の4泊6日の日程でイタリア（ローマ）の医療事情を視察してきました。

視察施設

Azienda Ospedaliera Sant' Andrea (救急／精神科)

大学病院で、2001年に設立。ローマ市内では最も新しい病院。救急医療は2005年より開始。研究、教育、臨床をバランス良く組み合わせることで、高水準の医療を提供している。救急受診者数は年間48,665人と非常に多く、看護師がトリアージを行い重症度に応じた対応を行う。救急病棟はトリアージ分類ごとに診察ルートが決まっている。また精神科病棟も備え、担当地区内唯一の強制治療を行う施設。デイホスピタルも設置。



Casa di Cura S.Valentino (精神科)

総合病院精神科と連携しているクリニック。急性期病棟30床、リハビリ病棟18床。入院期間は急性期病棟で最長90日、リハビリ病棟で最長2年間。年間入院は約300人。治療だけでなく、独立性の育成や社会復帰にも重きを置いているのが特徴である。主な疾患は統合失調症、双極性感情障害、人格障害、アルコール依存、薬物依存など。



AL PARCO

精神発達遅滞（自閉症）、精神疾患、身体障害を抱える患者に対して、身体的・精神的サポートを提供。日本の社会参加共同作業所と同様の役割を担う施設。最終目標は患者の社会復帰であり、それを目的としたリハビリプロジェクトを立案・共有し、様々なサポートを行う。芸術療法や音楽療法を行ったり、専門職種が地域に出向いて社会的サポートなどを行う。アットホームな雰囲気。



ローマ市内視察



コロッセオ



フォロ・ロマーノ



イタリアでの食事

参加者の学び・感想

○救急医療

- ・イタリアでは救急医療の場面でトリアージを積極的に採用していた。トリアージを用いることにより共通の理解が可能になり、診察の基準を作ることで患者の容態に応じた順序での処置が行えていた。また、待ち時間にトリアージをやり直すという対応策は、日本でも有効であると感じた。
(研修医・看護師)
- ・緊急性を要するかの判断は日本では医師が行っているが、イタリアではトリアージナースの業務が確立しており、お互いの判断や情報を尊重しているように感じた。(看護師)

○精神科医療

- ・事前学習では、“イタリアは精神医療の先進国で、日本は長期入院が多く後進国”ということであったが、日本とシステムの違いはあるが共通している部分も多く、日本の精神医療保健が遅れているわけではないということがわかった。少ない資源を必要な患者にどのように分配するかが共通の課題であると考えた。(看護師)
- ・地域全体で地域住民を見守り、支えることが、精神疾患患者が自立して生活できる励みとして重要になってくると考えた。(看護師)
- ・患者が地域で自立した生活を送れるよう支援するためには、関係職種が専門的知識を持って患者をアセスメントし、多職種間で情報を共有し質の高い支援を行うことが大切であると考えた。(専任教員)

施設ニュース

星 総合 病院

冬休みキッズツアーを開催 12月20日

小学生に病院の仕事を体験してもらうキッズツアーを開催し、小学生20名とその保護者が参加しました。

小学生は白衣姿で、救急車の見学や試乗、ヘリポート見学、救急蘇生法の体験、赤ちゃんの沐浴見学、車椅子および松葉杖体験、手術室での術衣着脱体験など、病院での様々な仕事を体験。保護者の皆さんには、食育講座としてりんごのカップケーキ作りに参加していただきました。「病院で働いている人はかっこいい」「もっと詳しく病院の仕事を知りたいと思った」などの感想が聞かれました。

次回は、今年の夏休みの開催を予定しております。



福島メディカルラリー競技に初出場

10月11日

福島県消防学校で行われた福島県メディカルコントロール協議会主催のメディカルラリー競技に初出場しました。この競技は、仮想の救急現場における救急活動の内容を競うもので、当院は研修医と看護師、須賀川消防救急隊の計7名で競技に臨みました。参加チームごと心肺蘇生や集団災害時のトリアージなどの合計得点を競い、実際の現場さながらの救急活動が繰り広げられました。消防とのチームワークもよく、初出場ながら大健闘でした。



星ヶ丘病院・介護老人保健施設オリオン

クリスマスコンサートを開催 12月13日

あさか開成高校音楽部の皆さんによるクリスマスコンサートを開催しました。「風の戯れ」(フルート四重奏)、「ガラスの香り」(サクソフォン四重奏)などのアンサンブルに続き、部員全員で「Christmas Happy Medley」、「Let It Go」、「あまちゃんオープニングテーマ」の演奏を披露してくれました。参加者は高校生が届けくれた一足早いクリスマスを楽しみました。



三春町立三春病院

健康講座を開催しました 11月29日

1階健診室前ホールにて、健康講座を開催しました。薬剤師と臨床検査技師、三春訪問看護ステーションの看護師が講師となり、それぞれ「インフルエンザワクチンのお話」、「ノロウイルス感染症について」、「訪問看護について」をテーマに説明しました。患者さんやご家族など約20名が参加し、熱心に耳を傾けていました。



介護老人保健施設オリオン

第4回家族介護教室

11月8日

星ヶ丘病院内科の玉木重先生による「誤嚥性肺炎について」、介護福祉士による「簡単!お口のお手入れ」の2題の講義が行われました。高齢者の誤嚥性肺炎の発生状況や、口腔ケアによる手入れの重要性について、さらに誤嚥性肺炎の予防方法について実技を通して学びていただきました。



ポラリス保健看護学院

国家試験激励会を開催

12月7日

2月に保健師・看護師国家試験を控える4年生のため、国家試験激励会が行われました。これからの季節風邪をひかないようにと、教員が牛丼、キノコたっぷりスープ、郡山ブランド野菜の御前ニンジンやビタミン大根、赤大根、蕪などをふんだんに使ったサラダを手作りし、4年生に振る舞いました。2月の試験で全力を出せるよう、体調管理に留意して学習を進めてもらいたいと思います。



トピックス

表彰者紹介

日本総合病院精神医学会 「第4回黒澤賞」を受賞

日本総合病院精神医学会の発展、総合病院精神医学の普及啓発、地域での総合病院精神医学の活動など、永年にわたる総合病院精神科医療への貢献が認められ、星ヶ丘病院の沼田吉彦病院長が「第4回黒澤賞」を受賞しました。



田村警察署長より感謝状を いただきました

検視業務への貢献が認められ、三春病院の渡辺直彦病院長、細谷英作内科部長が三春警察署長より感謝状をいただきました。



写真右は、田村警察署刑事生活安全課長 大井川様

福島県地域医療症例検討会で 研修医が準グランプリを受賞

12月20日、福島県医師会館において、福島県立医科大学主催「平成26年度福島県地域医療症例検討会」が開催されました。会では県内8病院の研修医による計9題の症例発表が行われ『DICを併発したツツガムシ病の一例』の症例を発表した研修医1年目の遠藤英成先生と大瀧遥先生が、見事準グランプリに輝きました。



平成26年度 介護職員初任者研修修了

11月29日、ポラリス保健看護学院にて、当法人主催 介護職員初任者研修の修了式を行いました。受講生17名は、6月～11月の土曜・日曜を利用した計22日間に渡る研修を受講し、全員が合格しました。

修了式では、高山一浩保健福祉部長代理が卒業生一人ひとりに修了証を授与し、「研修での学びを幅広く今後の活動に役立ててください」と挨拶しました。

平成27年度の介護職員初任者研修は、4月より受講の受付をスタートし、6月に開講予定です。



公益財団法人 **星総合病院**
HP <http://www.hoshipital.jp>

●星総合病院

〒963-8501 福島県郡山市向河原町159番1号
TEL 024-983-5511

星総合病院 在宅介護支援センター

〒963-8501 福島県郡山市向河原町159番1号
TEL 024-983-5515

ほしのご保育園

〒963-8501 福島県郡山市向河原町159番1号
TEL 024-983-5519

●星ヶ丘病院

〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地
TEL 024-952-6411

星ヶ丘訪問看護ステーション

〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地
TEL 024-962-1711

居宅介護支援事業所星ヶ丘

〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地
TEL 024-952-6414

星ヶ丘保育園

〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地3号
TEL 024-951-0788

●介護老人保健施設オリオン

〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天2番地
TEL 024-952-6413

●三春町立三春病院(指定管理)

〒963-7752 福島県田村郡三春町字六升50
TEL 0247-62-3131

三春訪問看護ステーション

〒963-7752 福島県田村郡三春町字六升50
TEL 0247-73-8270

●ほし横塚クリニック

〒963-8803 福島県郡山市横塚二丁目20-36
TEL 024-956-7778

星訪問看護ステーション

〒963-8803 福島県郡山市横塚二丁目20-36
TEL 024-956-2322

芳賀・小原田地域包括支援センター

〒963-8803 福島県郡山市横塚二丁目20-36
TEL 024-941-1121

●養護老人ホーム三春町敬老園(指定管理)

〒963-7752 福島県田村郡三春町字六升50番地の1
TEL 0247-62-3618

●ポラリス保健看護学院

〒963-8801 福島県郡山市向河原町159番7号
TEL 024-983-5010

ご意見をお聞かせ下さい。

ホームページアドレス

<http://www.hoshipital.jp>

発行／公益財団法人星総合病院

編集／「懸虹」編集委員会

発行日／平成27年1月

住所／〒963-8501

郡山市向河原町159番1号

編集後記
先日、星ヶ丘病院の竹内賢副院長が、郡山東高等学校新聞部三名による取材を受けました。取材テーマは「高校生と睡眠」。新聞部の腕章を構え、一眼レフカメラを構え、話を聞く姿は新聞記者そのもの。高校生の身近な睡眠に関する疑問に答える形で取材が行われました。
「高校生らしい新聞作り」を目指し、編集会議から取材先選定、現地取材、紙面レイアウトまで、全て新聞部の生徒自らが行うとのこと。学校の取り組みを地域に広く発信していくみたいという高い志を持つ高校生の姿勢に感銘を受けました。
改めて日々の業務に取り組む姿勢、病院広報の役割について見つめ直す機会となりました。自分の果たすべき役割、求められる役割を理解し、広報の役目を果たすべく、今年もよりよくお願いいたします。
広報担当 菅野